

梅窓院通信

No.43

2009/09/01

青山



住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



秋のお彼岸を迎える頃となりました。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。

七月の郡上おどり発祥祭に初めて参加させていただきました。今年の発祥祭は青山公の郡上入部二百五十周年にあたり、例年の神事に加え各種記念イベントを盛り込んだ式典にされたそうです。二日にわたり記念イベントが催され、私も「青山家と梅窓院について」という演題で話しをさせていただきました。

さらに港区と郡上市の友好交流協定締結一周年を記念するトークショーがあり、民から始まった二つの地域の交流に官も加わることで、さらに深く良い関係にしたいという中味のある内容になりました。

さて、話はお寺に……。

この欄で何度かお伝えしてきましたが、墓苑内桜の木の下の整備がようやく終わりました。新設の階段脇の壁に写真を掘り込んだミニギャラリーができました。昭和初期からの梅窓院や青山の様子が彫られていますので、ぜひ一度ご覧ください。懐かしい景色に気持ちも安らぐことと思います。また、お孫さんと一緒に見て説明されるのも一興でしょう。

(8頁参照)

お気づきの方も多いかと思いますが、青山通りから続く参道の入り口左手に、寺号塔が完成しました。香川県高松市の庵治石^{あじいし}で造りました。墓石としても使われる名石で、数百年の後まで、多くの方の目に触れるものになるでしょう。

最後に、郡上おどりに青山の話です。今年の初日は土曜日だったので、五千人近い人出となり、境内が人であふれました。肝心の郡上おどりも前後左右に手や足がぶつからないように気を使わないと踊れない状態で、何か対応策を考えないといけない大人気の行事となりました。

人が集うことでお寺の活力も増していきます。深謝十念

彼岸花の祈り

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦 上人

花

の美しさ、麗しさは、その花を愛でる私たち人間の心を美しく、麗しくする。花々に囲まれた生活は心を豊かにして、明るくはなやいで、おのずから明るいはほえみに包まれる。

猛暑の夏が去って、新涼の秋風が立つと、野山には秋の千草が万花に咲き揃う。桜花に代表される春の花のはなやかさに対して、秋の花はさわやかに、時にひそやかに咲きほこる。黄菊、白菊、とりわけ可憐な野菊の花など、少しくはかなげな思いを誘う。澄みきった秋空のもと、秋風秋気に身を委ねていささか感傷的な気分ひたるためには、秋の花こそまことに似つかわしい。

今回は、後の彼岸月、九月の花暦をめぐってみたい。夏から秋にかけて鮮やかに咲く鶏頭の花は、赤や黄色に炎のごとく燃え上って咲く。ニワトリのとさか(鶏冠)に花冠が似ていることから花名となったというが、まだまだ夏の名残の強い花である。葉鶏頭は、葉の色が鮮やかで鶏頭に似ているところからその名がついたが、時期的にも鶏頭に少し遅れて色づきはじめる。古い呼称では鎌柄(かまつか)といい、『枕草子』の中に、「かまつかの花、蒨たげなり」

と清少納言は書き留めている。

彼岸花は、その名のごとく秋の彼岸時分を代表する花である。これも炎のような真紅に咲きほこり、野原に群生するその彩りはなんとも見事である。サンスクリット語のマンジュリーシャカを音写した曼珠沙華が別称として広く知られているが、その意味は美しい花、愛らしい花、そして赤い花ということである。『法華経』の訳語から採られたというが、葉が出ないうちにま

ざ花が咲く、つまり「先ず咲き」という語呂合わせから仏教の世界と結びついたともいう。燈籠花・天蓋花・三味花の異名も領かれることである。秋の彼岸が過ぎると、彼岸花の赤い花は一齐に消え去る。さびしくもあり、はかなくもあり、花言葉に「悲しき思い出」とあるのも納得できる。また時に、カット開いた赤い花に毒々しい気配を感じることもある。死人花・幽霊花・捨子花・刺刀花・狐花などの変名は、その不思議な咲き方と鮮やかすぎる花の色に不吉なものを感じ取っている。

さて初秋の花といえば、ペゴニア属の秋海棠、淡紅色の花姿は清楚である。鳳仙花もゆかしい花で、かつては女の子たちが爪に花びらをつけて赤く

染めて遊んだということ、つまべ

に・つまくれな(爪紅)、染指草などの異名がある。このほか、松虫草や月草・螢草の別称のある露草、法螺貝草の異名を持つ釣舟草、薬師草の異名を持つ弟切草など、初秋の山野草は可憐である。かくして秋桜ともいわれるコスモスの花並をまのあたりにすれば、秋思秋想もひとしおとなる。

一族の墓の翳より曼珠沙華
曼珠沙華浄土の雲に紅移す
(草堂)
(静塔)

山口草堂は水原秋桜子門下の『馬酔木』の同人。彼岸花が二本、三本……、秋の彼岸の墓参りにあらためて今は亡き精霊をせつなく思う。昭和の戦中であって新興俳句の急進的な論客であった平畑静塔の句は、秋の日の夕焼け雲に彼岸花の真紅を移し取って、みずからの燃えるような思いを西方極楽浄土への祈りに昇華している。

彼岸花―曼珠沙華に寄せて、秋の彼岸の供養をする。いや、それだけでなく黄菊白菊をはじめ、秋の花々に心を寄せて、祈り願う心、祈り念ずる心を深くする。咲く花の清らかなほころびを笑顔の生活に受けとめて、生き生かされ合いたい。

(大正大学教授)

盂蘭盆会法要
7月13日(月)
梅窓院本堂



盂蘭盆会法要の様子。

第47回念仏と法話の会
6月19日(金)
精勤表彰者



浄土宗の運営する保育についてこの日、梅窓院にて情報交換会が開かれました。14日(日)には朝のお勤めにて中島住職の講話も催されました。



施餓鬼会
大法要
7月21日(火)
本堂・祖師堂

満員の祖師堂で行われた施餓鬼会大法要。

第16回郡上おどり in 青山
6月27日(土)・28日(日)境内



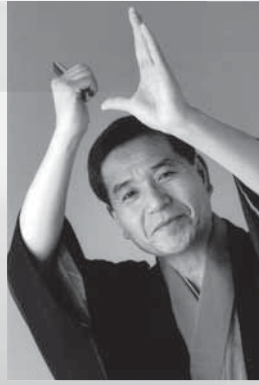
境内は超満員の来場者でぎっしり。

六月・七月の

行事報告

秋彼岸法要

九月二十三日(水)



林家正雀 師匠

彼岸寄席

午後1時～ 2階 本堂

プロフィール

しょうじゃく

林家正雀 師匠

昭和26年、山梨県大月市生まれ。昭和49年に林家彦六師匠に入門。昭和53年に二ツ目に進み、正雀と改める。昭和58年、真打に昇進し、現在も幅広く活躍中。

秋彼岸会法要

午後2時～ 2階 本堂

お彼岸ライブ in 青山

秋彼岸恒例のお彼岸ライブ。

今回はSoothe(スース)をはじめ邦楽系アーティストをお迎えし、新企画として当日着物・浴衣でご来場の皆様に「いそべ焼き」をプレゼント。また、会場では当院の友禅教室ワークショップで染物体験(参加費1,000円)もできます。自分だけのオリジナルハンカチを作ってみませんか？

開 場 午後2時45分

地下2階 祖師堂

開 演 午後3時15分

入場料 お布施 500円以上
(ドリンク付きです)

別紙案内もご参照下さい。



友禅教室
ワークショップ

自分だけの
オリジナルハンカチを
作ってみませんか？

染物体験
(参加費1,000円)

塔婆申込み方法

同封のはがきを使い9月15日必着でお申込み下さい。塔婆回向料は **1本 7,000円** とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、**当院受付**までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)

お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混みます。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いします。

秋彼岸に寄せて

私の自坊、青森津軽の板柳町にはリング農家の方がたくさんいらっしゃいます。

そこで、これからの時期に食後のデザートからお仏壇のお供え物にも重宝する、おいしいりんごの見分け方をお伝えしようと思います。

まず手に持って中身がしっかり詰まっているか確認します。やはりずつりとした重いものを選んで方がよいでしょう。

そして次は果皮の状態です。リングは収穫して時間がたつと皮がヌルヌルしてきます(注、ツルツルとは違いますのでご注意ください)。新鮮さを求めるうえでこれは避けたほうがよいかもしれません。おいしさを重視するのであれば、果皮はすこし位カサカサしたものがよいと思います。

ほんの少ししかお伝えできませんでしたが、このような見分け方をお試しになってはいかがでしょうか？

そしておいしく育つために必要な土地の恵み、丹精込めて作ってくださった農家の方に感謝を忘れることなくお念仏をお称えしてから召し上がってくださいたいと思います。

合掌
(法務部)



郡上おどり
特別企画①

青山公郡上入部二百五十年記念事業

— 東京都港区・郡上市友好交流協定締結一周年記念 —

梅窓院の開基、青山家が岐阜の山村、郡上八幡を治め始めてから二百五十年を迎え、

郡上八幡挙げての記念行事が開催されました。また、郡上おどりが縁結びとなり一年前に

友好協定を結んだ港区からは副区長もトークショーに出演。

そして、その良政で「お殿様」と慕われた青山公十四代後見人による開幕宣言。

さらに梅窓院住職の講話と、行事尽くしとなった二日間の模様をお伝えします。

一日目

7月11日(土)
郡上おどり発祥祭と
青山公郡上入部行列

「東京の港区と交流できるなんて」という驚きと喜びが大きかった、という郡上市、「清流と緑があふれ、伝統を守っているのは魅力的」という港区。この両者が友好協定を結んだのが、昨年梅窓院で開催された郡上おどりの日でした。そして、両者の直接の縁結びの神となった郡上おどりは、梅窓院での「郡上おどりに青山」となり、港区でも有名な行事のひとつになりました。

両者の元を辿れば徳川家に仕えた青山家の下屋敷があつて、地名が青山になり、その青山家が一揆で荒れていた郡上八幡を治めたことにまで遡ります。ちなみに青山本家は丹後篠山を治めました。

そして今年はその青山家が郡上八幡に入部して二百五十年目にあたり、郡上市挙げての記念行事が行われました。



1



2



3



4



5

二日目



7月12日(日) 梅窓院ご住職による 講話とトークショー



8 梅窓院住職講話

2日目に「青山家と梅窓院について」の演題で梅窓院中島住職の講話がありました。青山家の四代から十三代の当主のお墓が梅窓院にあることなど、菩提寺の住職ならではの話しをされました。

9 剣詩舞

郡上藩には幕末に徳川幕府側についた凌霜隊があり、彼らは会津で戦いにも参加しています。その凌霜隊を演目にした剣詩舞積翠流が演じられました。

10 友好交流トークショー

友好関係を結んだ郡上市と港区の交流トークショーが行われ、郡上市からは市長と観光連盟会長が、港区からは副区長と青山外苑前商店街振興組合理事長が出席しました。郡上おどりや物産品だけでなく、子供たちの行き来が始まったこと、そしてさらに色々な面での交流をしていこう、ととても前向きな内容の話になりました。

「郡上おどりin青山」では会場を提供している梅窓院ですが、梅窓院はもともと青山家の菩提寺として建立されたお寺、記念イベントの中で住職が「梅窓院と青山家について」という題での講話依頼を受けるなど、日ごろからのお付き合いもあり、歓待を受けました。

二日間の行事を通じて感じられたのは、郡上おどりが本当にみんなに愛されていること。そして長きにわたる民間での友好関係が公の協定にまで発展した港区と郡上市の相思相愛関係(?)ということでした。



1 神事

足かけ3か月にわたり32夜踊られる郡上おどりの安全を祈願します。26人の来賓が出席、岐阜県副知事、港区副区長ら多くの方々から祝辞をもらいました。

2 青山公郡上入部行列

地元の有志の皆さんが殿様や武士の姿になって「青山公郡上入部行列」を再現しました。観光客の歓声の中、郡上八幡のメイン通りを通過して旧庁舎記念館前の広場へ。

3 踊り流し

行列の後ろに郡上おどり保存会を始め、30近くの団体が踊り流しで続けました。それぞれに工夫された柄や、色とりどりの浴衣がとても綺麗でした。

4 宝曆義民太鼓

正面に大きく貼られた傘連判状の前で、民衆に扮し面をつけた演者が、勇壮な太鼓をたたきました。悪政に苦しめられた郡上の農民が決死の覚悟で訴えた歴史は映画にもなっています。

5 古流新心流抜刀術

映画にもなった郡上一揆の後に、郡上に入部したのが青山家でした。新しい殿様の民を思いやる治政のもと、郡上おどりは盛んになりました。その青山家が伝えた古流新心流抜刀術が披露されました。

6 郡上おどり開幕宣言

32夜の郡上おどりの初日には、開幕宣言が行われます。記念すべき今年には東京から青山家後見人青山 様が出席、奥様と舞台にあり、堂々の開幕宣言をされました。

7 踊り全体図

誰にでも簡単に踊れる郡上おどりに全国各地からファンが集まります。この日も会場の広場いっぱいにおどりの輪が広がり、お祝いにふさわしい笑顔でみなさんおどりを楽しんでいました。

商店街友好都市と交流に関する基本協定

平成20年6月21日、東京都港区と岐阜県郡上市での間、結ばれたもので、港区、郡上市、青山外苑前商店街振興組合と郡上市観光連盟の四者で結ばれたものです。

両地域の各種交流のほか、防災時の支援交流までも含めた幅広い関係のやりとりを約束したものです。

都心の街と山中の村という両者の好対照の環境が魅力になったようで、お互いから求め合った形で結ばれたそうです。



平成20年6月21日、梅窓院祖師堂で行われた調印式。

32夜続く郡上おどりで全国にその名を知られる郡上八幡。きれいな水に緑濃い山々と豊かな自然に恵まれる郡上は高速道路開通もあり、人気を呼んでいる。そして何より、今年は郡上の名殿様となった青山家が郡上を治め始めて250年目を迎える記念の年だ。そんな話題多き郡上の観光協会会長さんに話を伺った。

◆さんはいつも“郡上おどりin青山”でお顔を拜見させていただいていますが、いつからお越しですか？

私が郡上八幡の観光協会の会長になった年、ちょうど郡上おどりが梅窓院で始まった年でもあり16年前です。以来、全16回、皆勤賞です(笑)。

◆それはすごい！今は人気行事となり、今年は境内に人が溢れましたが、最初はどんな様子だったのですか。

記念すべき第1回は人が来なくて、さくらを無理やり踊らせて人を集め、ようやく30人くらい、一重の輪がやっとでした。自然に人が集まってきたのは5~6回目くらいからです。

◆いろいろ苦労もありだったのですね。ところで“郡上おどりin青山”が始まるきっかけを教えてください。

きっかけは岐阜県の副知事と港区長との会話からで、「港区は青山公の下屋敷でしたから交流しませんか」という区長の誘いに副知事が応え、郡上八幡の町長が青山商店街主催の青山まつりの武者行列に参加したことからです。

そこで町長が青山外苑前商店街振興組合の 前理事長に「青山で郡上おどりを始めませんか」と提案された。それは、郡上八幡にとっては願ったりかなったりでした。しかも、梅窓院さんが気持ち良く境内を会場に提供してくださって、“郡上おどりin青山”が始まったのです。

◆なるほど、最初は副県知事と区長の会話からですか。

でも、それをきっかけとして民間で行事を続け、それが去年の“郡上おどりin青山”で締結された「東京都港区・郡上市友好交流協定」という正式な交流関係になったのですから、官の応援でますます両地域のつながりは深くなりそうですね。これは観光協会会長としては、まさに会長冥利に尽きますね。

(笑)いえいえ、こういうのは縁の重なりですから誰がやっても同じですよ。でも、そうした現場に居続けられているのは嬉しい限りです。

◆さて、郡上八幡は高速道路の全線開通で観光客が増えていると聞いていますが……。

ありがたいもので、毎年観光客が増えています。郡上市全体では、有名なスキー場もあり年間600万人の観光客が来てくれますが、郡上八幡だけでも年間140万人になりました。

ただ、観光客は増えても観光収入はあまり増えません。郡上おどりのある夏は宿泊施設が足りないくらいですが、それ以外の季節になると宿泊客は少ないです。高速道路で便利になった分、郡上八幡には立ち寄るだけで、泊まるのは高山や北陸で、ということになりますから。

昭和8年郡上八幡生まれ、75歳。80年続く酒屋の2代目だったが、16年前の郡上八幡観光協会会長就任とともに息子に家業を譲り、以来8期にわたり郡上八幡への集客に尽くされている。



郡上発祥祭で乾杯をする 会長(右から5人目)。

◆なるほど、便利も良し悪しなのですね。

郡上八幡の名物という何でしょうか。

「水とおどりと心のふるさと」というキャッチフレーズ通りで、長良川、吉田川、小駄良川という一級河川3本の合流地点で、澄んだ水が豊かで自然に恵まれています。

そして夏の夜、3か月に亘り32夜踊られる郡上おどり、山上にそびえるお城、が名物です。

◆“郡上おどりin青山”で郡上の鮎の塩焼きをいただきましたが、美味しかったです。これも清流の恵みですね。

そうですね、鮎を始め他にも名産品がたくさんあります。それに、このところ映画のロケ地になったり、川中美幸さんが『郡上夢うた』という曲を出されたり、いつの間にか郡上が宣伝されています。

◆観光協会会長としてはありがたいことですね。

最後に長きに亘る会長としての夢をお聞かせ下さい。

一人でも多くの観光客に来てもらい、郡上八幡の良さを知ってもらいたいですね。

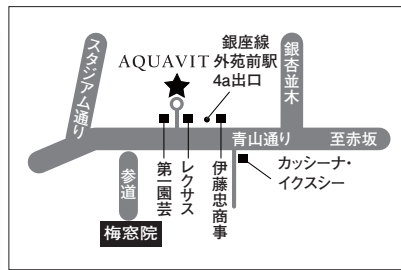
郡上八幡の良さは自然ですから、宿泊施設や滞在向けの施設を造るよりは、迎えるおもてなし心でリピーターになってもらえる町にしたいですね。

◆自然と人の心の二本立て、これからより人気のある町になりそうですね。

今日はお忙しい中、ありがとうございました。



郡上について語る 会長。



営業時間／ランチ11:30~15:00 (LO14:00)
 ディナー18:00~23:30 (LO22:00)
 定休日／年中無休
 席数／総席数122席(うち半個室12名)
 住所／東京都港区北青山2-5-8青山OM-SQUARE 1F
 TEL／03-5413-3300 FAX／03-5413-2525

モダン北欧料理
 レストラン
アクアヴィット
 北青山の中でもひと際高いオラクルビル一階奥に洗練された店構えのお店がある。
 一歩足を踏み入れると、高級感と寛ぎ感溢れる空間に魅了される。ニューヨーク本店に似せて造られたと言う店内はデンマーク製の家具やテーブルウェアが心地よく並べられ、落ち着いた食事を楽しむ事ができる。

モダン北欧料理
 と言うと馴染みがないが、素朴でシンプルな北欧の伝統料理に、フレンチの調理法を融合。年齢を問わず楽しめるお味だ。



◀ランチは1,500円~。スモールサラダ・アイスティー・パン・食後のコーヒーが付いてお得です。



▶開放感溢れる空間。

◀高級感漂うエントランス。



▶ランチでおすすめのミートボールは北欧の伝統料理。リンゴンベリーのソースと共に頂きます。



モダン北欧料理と
 織細で美しいプレゼンテーションのお料理も楽しみの一つ。
 ラunchは千円台で楽しめる十種類
 のメニューの他、セットランチやコースメニューなども楽しめる。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○神の杜映して植田澄みにけり

◎入選

○山開きホルンの音のゆるやかに

○駅一つ手前で下りる麦の秋

○訪へばすぐ孫はこびくる麦茶かな

○麦茶飲んで午後の法話を待ちにけり

○独り居にほほづき色の夏の月

○久々の友の笑顔や新茶つぐ

○咲いて散り咲いて散りゆく夏椿

○母あふぐ団扇の風を背に受けて

○蚊に刺されかゆきて起きる昼下がり

◎選者詠

○帚木の夕日ふふみて浮くがごと

大崎 紀夫

◎ワンポイントアドバイス

旅吟というものがありません。旅先で詠んだ句のことで、その地の地名を詠み込んでその地の挨拶とすることがあります。しかし、名所旧跡を詠み込んだ秀吟は少ないようで、その場合は覚えて説明的な句に終わることが多いようです。むしろ、その地の風土を特徴づけるもの、例えば津軽地方であればリンゴとか山背とか、能登半島であれば波の花とかをうまく読み込んだりすると成功するようです。

投句募集

今回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。11月7日を締切、平成22年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
 梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
 電話03-5368-1870

食は命

第三十六回

サトイモ

武鈴子
 食養研究家

東北地方の秋の風物詩「芋煮会」。主役はサトイモ。大根、人参、こんにゃく、葱、しめじ、舞茸など、具材は地域によってさまざま。味付けはしょうゆ味、みそ味ともにある。日本では米作以前にサトイモを主食にした時代があったとの説があり、現在でも行事食によく用いられ、正月の雑煮の中にサトイモを入れる風習は各地にある。中秋の月を「芋名月」とよんで、キヌカツギ芋を供えたり食べたりする習慣は古くからある。

古来「芋蕨」と呼ばれて特異の薬効が認められている。江戸時代は食材の効能を和歌に詠み込んで町民に教えている。サトイモは「いも(里芋)はただ腸胃ゆるくし 気をくだす 虚を補いて 血をやぶる也”(里芋は胃腸の滞りをゆるめて、気分を落ちつけ、精気を取り戻して、古血を取り除くものである)——と。

また、外用としては、すりおろして、生姜のしぼり汁と小麦粉を練り合わせて患部に塗ると、腫れ物や火傷などによい。

「うま煮」……ねぎとの組み合わせは、胃腸の働きを助けて、消化吸収をよくし、便秘を解消する。

イモの皮をむいて多めの塩でごしごしもみ、水洗いしてヌメリをとったイモを鍋に入れ、ひたひたのだし汁を加えて弱火で煮る。軟らかくなったら酒、醤油、みりんで味を調えて煮含める。イモはねぎと相性がよいので、味付けをするときにねぎのぶつ切りを加えると、ねぎの甘みが増していっそう美味しくなる。

行事予定

秋彼岸会法要

9月23日(水)
寄席 午後1時～ 本堂
法要 午後2時～ 本堂



お彼岸ライブin青山
開場 午後2時45分～ 祖師堂
開演 午後3時15分～
※詳しくは3面をご覧ください。

第48回 念仏と法話の会

10月15日(木)
受付開始 午前12時(正午)～
別時念仏会／法話／茶話会
法話「元気になる仏教」
【講師】梅窓院 川添 崇祐上人



M・ファン・デン・フックピアノリサイタル

11月末 開催予定
※詳しくは十夜号にてお知らせ致します。



十夜法要

11月21日(土)
法要／芋煮会
※詳しくは十夜号にてお知らせ致します。



梅窓院墓苑内桜の木の下の階段に、写真を石に彫り込んだ梅窓院今昔ミニギャラリーが出来上がりました。



梅窓院参道入り口に寺号塔が出来上がりました。

梅窓院よりお知らせ

梅窓院団体参拝旅行報告

長野 善光寺 御開帳の旅 平成21年5月10日(日)～11日(月)

本年度は、7年に1度の御開帳を迎えた信州善光寺を訪れました。回向柱に触れ、阿弥陀様との御縁を結んで参りました。翌日は小布施に足を延ばし、ゆっくりと観光を楽しみました。



善光寺本堂と回向柱。



善光寺境内にて記念撮影。

平成21年度 後期 仏教講座のご案内

※詳細は別紙同封の案内をご覧ください

梅窓院では10月より平成21年度後期仏教講座を開講します。講師は前期より引き続き、阿川先生、新井先生、勝崎先生、林田先生、本林先生の5名の講師でお送りいたします。どうぞお気軽にご参加ください。

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講師	本林 靖久 先生 真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学講師	第1回 10月 2日(金) 婚姻の諸類型 第2回 1月29日(金) 婚姻儀礼 第3回 3月29日(月) 厄年・年祝い儀礼
講題	個人と社会の民俗 ―結婚儀礼をめぐる―	
講師	阿川 正貴 先生 浄土寺住職 大正大学講師	第1回 10月28日(水) 鳩摩羅什を中心に 第2回 12月 2日(水) 玄奘を中心に 第3回 3月 4日(木) 善導大師を中心に
講題	古都長安と仏教	
講師	新井 俊定 先生 天然寺住職 大正大学出版会主管	第1回 11月 9日(月) 懺悔のころ 第2回 1月22日(金) 欲望について 第3回 2月26日(金) 心の垢を取り除く
講題	『四十二章経』を読む	
講師	勝崎 裕彦 先生 香蓮寺住職 大正大学教授	第1回 11月26日(木) 阿弥陀信仰の民俗学 第2回 12月17日(木) 観音・地蔵の考現学 第3回 2月18日(木) 仏・菩薩観総説
講題	仏・菩薩 ―その教えと信仰	
講師	林田 康順 先生 大正大学准教授、大本山増上寺 布教師、慶岸寺副住職	第1回 12月 7日(月) お念仏 一人間の常識は仏の非常識― 第2回 2月 8日(月) お念仏の日暮らし 第3回 3月16日(火) お念仏のご功德
講題	法然上人のみ教え ―入門編―	



6月より広報部に、ご僧侶の川添崇祐(かわぞえすうゆう)上人が入山されました。宜しく願ひ致します。

発行/梅窓院
発行日/平成21年9月1日
発行人/中島 真成
編集/青山文化村
住所/〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8107
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp
題字/中村康隆前浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡
表紙写真撮影/青山幸文



「食は命なり」で好評連載中、武鈴子先生の最新刊をご紹介します。『野菜の力をいかす 和食薬膳レシピ』(家の光協会) 一、三六五円で好評発売中です!

編集後記